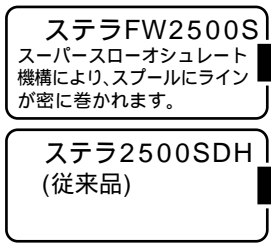




【S-SYSTEM】... SMOOTH・SILENT・STRONG を追求するために集結された独自の機構の数々。

スーパースローオシュレート（密巻機構）

密に巻かれたラインは、スプール前後のターン数が極めて少ないため、乱れず美しく放出されます。従来の場合と比較してエネルギーロスが少ないためこれまでにない遠投性を発揮します。それは同時に複雑なスプールの上下運動を落ち着かせ、巻くことの楽しさを生みだします。右のイラストはイメージ図です。



スーパーシップ



SMOOTH & HIGH POWER SYSTEM

スムーズ&ハイパワーシステムとは...

従来のSHIPにさらに磨きをかけたSUPER SHIPはよりパワフルで敏感な巻き上げ、軽く超スムーズな回転を実現したシステムです。

歯の形状を徹底的に研究し開発した大口径マスターギヤを搭載しました。そして独自のカチを持つ歯面を、ラッピング処理により磨き上げることで、まるで吸い着くように滑らかで、軽い巻き上げが可能になりました。

スーパーフローティングシャフト

ハイパワーのポイントとなるフローティングシャフトは、今までリール回転時にこすっていたスプール軸とピニオンギヤの関係にスプール軸を支えるベアリングを組み込むことにより、摩擦を大きく軽減しています。（#1000、#1000SDHはフローティングシャフト）

マグネシウムボディ

比重の軽いマグネシウム合金を、ボディとハンドルに採用し大幅な軽量化を達成しました。

糸巻き形状の調整

糸巻き形状の調整が可能のため、フロロカーボンのような堅い糸でのバックラッシュのトラブルを防止できます。（「操作方法」参照）

パワーローラーIII

竿の穂先やガイドへの糸がらみなど、トラブルの原因となる糸ヨレは主に糸を巻きとる時に生じます。そこでシマノのスピニングリールには、糸を巻きとる時、糸のヨレを50%解消する新開発「パワーローラー」を採用。ライントラブルの減少を図りました。1（当社比、基準による）2



1 糸ヨレについて
次のような外的条件によっては、ローラー性能が発揮できないため、糸ヨレが生じる場合があります。ご了承下さい。
もともと糸がヨレている時。
ドラッグが作動した時。
仕掛けが回転して、ヨリをかけている時。
新しい糸を巻くおり、巻き方が不適切だった時。
非常に軽い仕掛けの巻きとりでローラーが回転しない時。
仕掛けを投げた直後の糸フケを巻きとる時。
その他、糸にテンションがかからずローラーが回転しない時。
2 当社比、平均50%解消
磯釣、投げ釣、ルアーフィッシングなど異なる釣種の色々な使用条件下（仕掛け、ルアー、巻きとり具合）で1日釣をしたということを想定したテスト（当社品質規格）を行い、従来商品と比較したデータです。平均で50%解消していますが、使用条件によりその効果は多少異なります。

パワーローラーIII

細糸でもヨレない新型のローラーを採用、さらにトラブルの減少を図っています。（下段「パワーローラーIII」の項を参照）

POSITIVE&FRICTION BAIL

ポジティブ&フリクションベール
ベールを開くとカチッというクリック音がしてベール操作がスピーディに正確に行えます。
キャストの時にターンしにくく、適度なフリクションがかかるため、ローターが回転してベールがじゃまになりフェザーリング（サミング）の妨げになるのを防止します。

ウォータープルーフドラッグ

微調整が可能で操作性にすぐれたマイクロクリック機構付ウォータープルーフドラッグです。雨天や潮をかぶるなどの過酷な条件でもドラッグ性能が変化しません。

その他の機能

スーパーストッパーII（ローラーベアリング1個内蔵）

アルミ合金コールドフォーミング（冷間鍛造）ブランキングスプール
バイオフィットグリップ

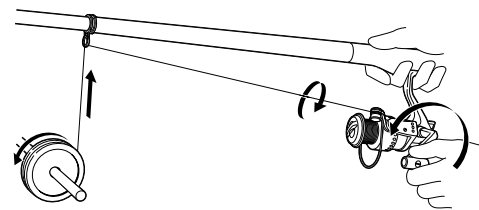
ボールベアリング14個（DHは16個）内蔵
#1000のみ12個（DHは14個）

チタンコーティングステンレススプールリング

パワーローラーIIIご使用上の注意

「パワーローラーIII」で快適な釣りを楽しんでいただくために、スプールに新しく糸を巻く場合は、下図の要領で糸を巻いて下さい。

1. 図のようにリールを竿に取り付けます。
2. 第1ガイドから糸を通してスプールに結びます。
3. ドラッグの締まっていることを確認して下さい。
4. 糸が巻かれているポビンに割り箸のような軸になるものを通します。
5. それを誰かに持ってもらい、適度なテンションをかけてポビンを回転させながら糸を巻いて下さい。



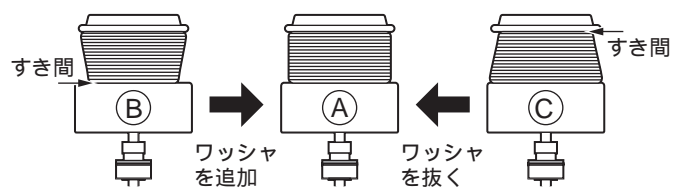
操作方法

糸巻き形状の調整方法

ステラFWシリーズはそれぞれの番手の糸巻表示で100mぴったり巻ける太さのラインを巻いたときに、図(A)のようなテーパのない平行な糸巻き形状になるように設計されています。それより細い糸になる程度逆テーパ(B)になりやすく、太い糸になるほど順テーパ(C)になりやすい性質があり、いずれの場合もライントラブルの原因になりやすいものです。付属の調整ワッシャによりなるべく(A)に近い状態に巻き上げていただくことをお勧めします。調整方法は以下の手順です。

メーカー出荷時はスプールワッシャを3枚装着しており、付属の調整ワッシャは0.5mmが2枚、0.25mmが2枚です。

- (A) 理想とする糸巻き形状（糸巻表示で100mぴったり巻ける太さのラインを巻いた場合）...スプールワッシャ3枚装着が標準
- (B) 逆テーパでスプール下端にすき間を生じる（Aより細い糸になる程なりやすい）...スプールワッシャ3枚にワッシャを追加する
- (C) 順テーパでスプール上端にすき間を生じる（Aより太い糸になる程なりやすい）...スプールワッシャ3枚からワッシャを抜く



スプールの脱着方法

取りはずし方
ドラッグツマミを反時計回りにまわして下さい。
取りつけ方
スプールの軸をゆっくり回しながら、スプール軸が完全につきぬけるまで入れ、ドラッグツマミを時計まわりに回して締めつけて下さい。

ワンタッチハンドルの折りたたみ方法

ハンドルをたたむ時は、ワンタッチボタンを押して、手前に倒して下さい。ハンドルをのぼす時は、たたむ時と逆にします。

糸止めベルト

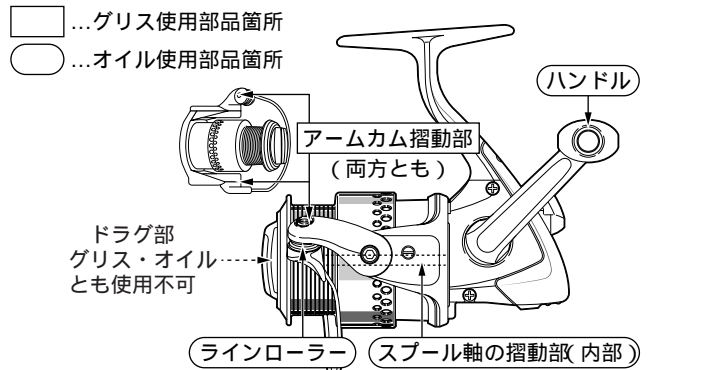
とめ方
図のように付属の糸止めベルトをスプールの糸巻き部にかぶせて糸を止めて下さい。

ハンドルの左右付け替え方法

1. 防水キャップを取りはずし、ハンドル根元を固定しているネジをはずします。
2. ハンドルと防水キャップを左右に入れ替え、ネジを締め直して下さい。
注意
ハンドルの左右付け替え時、ハンドル固定ボルトの取り付け取りはずしする際、ボルトのマイナス溝に合ったマイナスドライバーをご使用下さい。大きいコインなどを使用するとリール本体塗装を傷つける恐れがあります。

お手入れの方法（グリス・オイルの使用箇所について）

グリス使用箇所とオイル使用箇所は下図を参照していただき、まちがえないように塗布して下さい。グリス、オイル類はシマノ純正品（SP-003H リールメンテスプレー・別売）をお使い下さい。そうでない場合の品質の保証はいたしかねます。ご注意ください。



注意
ドラッグ部のお手入れには、リールドラッグ部専用グリス（DA、DB）を品番を確認の上ご使用ください。お取り寄せは最寄りの販売店へご注文ください。
適合品番
ドラッググリスDA...1000S/1000SDH/2000S/2000SDH/2500S/2500SDH
ドラッググリスDB...3000S/4000S

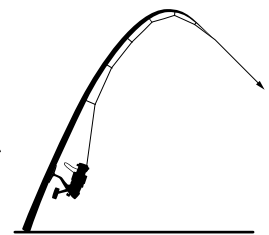
ストッパーツマミの操作

リール後ろから見てツマミが左に倒れている時（ON）、逆転止めがかかり、ハンドルは正転方向にしか回りません。通常の巻取りやドラッグで魚とやりとりする時に使用します。
同様に、ツマミが右に倒れている時（OFF）、逆転止めが解除され、正転、逆転どちらの方向にも回ります。ハンドル逆転による糸の送り出しができます。

ドラッグの調整方法

ドラッグは、その強弱を調整することによって急激な魚の引きに対し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。

1. 実際に使用される竿に本体をセットし、道糸をガイドに通して下さい。
2. ストッパーONの状態、図のように糸を引き出しながら、ドラッグツマミの締めつけを調節して下さい。ドラッグ力は右に回すと強くなり、左に回すと弱くなります。
3. 通常は糸切れを起こす寸前の力でスプールが空転し、糸が出ていくように調節して下さい。また遠投などする時は、必ずドラッグをよく締めつけてから投げようとして下さい。ドラッグが滑って糸で手を傷つけることがあります。



リールが水没し、リール内部に浸水した場合のメンテナンス

万が一、リールが水没してしまいリール内部に浸水した場合は、釣具店を通じて弊社アフターサービスへ修理を依頼して頂くか、又は、下記の手順で水を抜くようにして下さい。

1. ギヤカバーを外し、その部分が下になるようにして水を抜き、十分に乾燥させた後、シマノ純正リールオイルスプレー（リールメンテナンススプレー：SP-003H）を注入して下さい。

注1 ギヤカバーを外した際、ハンドルを逆転させないでください。ギヤを傷つける恐れがあります。
注2 取付ネジは締め付け過ぎないように注意して下さい。（締めトルク9.8～19.6N/cmが適当です。）

2. ローターを外してローラクラッチ上部より、シマノ純正リールオイルスプレー（リールメンテナンススプレー：SP-003H）を注入して下さい。

グリス（リールグリススプレー）の注入は絶対に行わないでください。ストッパーのローラーベアリングのスリップの原因になります。

